

海外食料需給レポート

(2020年5月)

令和2年5月28日

農林水産省

海外食料需給レポートについて

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(米、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

このレポートは、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

5 本レポートに記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/ampo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し(農林水産政策研究所)：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報 (ALIC の情報サイト)：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関 (英語及び各国語となります)

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関 (FAO)：<http://www.fao.org/home/jp/>
- ・国際穀物理事会 (IGC)：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構 (OECD) (農業分野)：<http://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム (AMIS)：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省 (USDA)：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社 (CONAB)：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省 (AAFC)：<http://www.agr.gc.ca/eng/home/?id=1395690825741>
- ・豪州農業資源経済科学局 (ABARES)：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

目 次

概要編

I	2020年5月の主な動き	1
II	2020年5月の穀物等の国際価格の動向	2
III	2020/21年度の穀物需給（予測）のポイント	2
IV	2020/21年度の油糧種子需給（予測）のポイント	2
V	今月の注目情報	
	穀物輸出規制の動向と2020/21年度の穀物生産見通し	3

(資料)

1	穀物等の国際価格の動向	6
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	7
3	令和元年11月以降の食品小売価格の動向	8

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
2	とうもろこし	8
3	米	12
II	油糧種子	
	大豆	16

【利用上の注意】

(概要編)

I 2020年5月の主な動き

1 米国のとうもろこし、大豆の作付状況

米国農務省（USDA）の農産物需給報告（WASDE）等によれば、2020/21年度の米国のとうもろこしの生産量は作付面積の増加から4億トンを超え、大豆も1億トン台に回復するとみられている。とうもろこし、大豆の作付けは、降雨過多により大幅に遅延した前年と比較して天候に恵まれ、5月17日時点の作付進捗率は前年度や、過去5年平均を上回り、それぞれ80%、53%となっている。

しかしながら、5月上旬から中旬にかけて、産地の中西部で過去50年間で類を見ない低温となり、発芽後の生育への影響が懸念されている

ことから、引き続き注視していく必要がある。

写真 米国とうもろこしの作付け後実施された肥料散布
(イリノイ州 4月28日撮影)



2 中国の穀物需要・輸入動向

米国農務省（USDA）の5月見通しによれば、2020/21年度の中国の穀物等の需要は、小麦、とうもろこし、米、大豆とも前年度を上回る見通し。小麦の需要増は食生活の西洋化、とうもろこしや大豆の需要増はアフリカ豚熱の影響で減少した飼料用需要の回復が要因とみられている。

中国海関統計によれば、中国の1-3月期の小麦の輸入量は1.2百万トン（前年同期比23%増）、とうもろこしの輸入量は1.3百万トン（同27%増）、大豆の輸入量は17.8百万トン（同6%増）と増加している。

一方、世界の穀物の期末在庫における中国の期末在庫の占める割合は、小麦で52%、とうもろこしで59%、米で64%と半分以上を占め高水準となっている。しかしながら、国際穀物理事会（IGC）の情報によれば、中国政府は、新型コロナウイルスの第2波の感染拡大に備え、備蓄の積み増しを国営貿易企業や食品加工業者に要請している模様。

3 東南アジア諸国の輸出規制解除

4月に米の輸出枠40万トンを設定したベトナムが5月から規制を解除し、4月に一時的に米輸出を停止していたミャンマーが5月に米の輸出枠15万トンを設定して輸出を再開した。また、タイは3月末に輸出を禁止していた鶏卵に関し、価格が安定してきたことを理由に5月から輸出規制を解除した。香り米以外の米輸出が禁止されていたカンボジアでも5月20日以降、輸出規制が解除となった。

II 2020年5月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、4月下旬、190ドル/トン前半で推移。その後も、平年を下回る春小麦の作付進捗や、米国、カナダの主要産地で気温が低下するとの予報から引き続き190ドル/トン前半で推移したものの、5月の米国農務省需給報告で世界及び米国の期末在庫量が予想を上回ったことから下落し、5月下旬現在、180ドル/トン後半で推移。

とうもろこしは、4月下旬、120ドル/トン前半で推移。米国の順調な作付進捗の一方、原油価格の復調や米国産とうもろこし輸出売上高の増加、中国からの買付等によりやや上昇し、5月下旬現在、120ドル/トン半ばで推移。

米は、4月下旬、570ドル/トン前半で推移。ベトナムの輸出規制が5月から撤廃されたことにより下落したものの、依然として高止まりしており、5月下旬現在、510ドル/トン後半で推移。

大豆は、4月下旬、300ドル/トン半ばで推移。原油価格の復調、中国の米国産大豆の買付期待等の一方、米中の対立懸念や米国の順調な作付進捗から上下し、5月下旬現在、310ドル/トン前後で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

III 2020/21年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より3.3%増の27.5億トン。消費量は、前年度より2.2%増の27.1億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を上回り32.1%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度比較して、小麦、とうもろこし、米で上回り、穀物全体でも上回ることから27.5億トンの見込み。

消費量は、前年度と比較して、小麦、とうもろこし、米で上回り、穀物全体でも上回ることから27.1億トンの見込み。

貿易量は、小麦、とうもろこし、米で前年度を上回り4.5億トンの見込み。

期末在庫量は、8.7億トンと前年度を上回り、期末在庫率も前年度を上回る。

(注：数値は5月の米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

IV 2020/21年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.1億トン。消費量は前年度を上回り6.0億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、18.9%となる見込み。

(注：数値は5月の米国農務省「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報:穀物輸出規制の動向と 2020/21 年度の穀物生産見通し

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、3月末から4月当初にかけて東南アジア諸国や旧ソ連諸国で米や小麦等の輸出枠の設定などの規制が行われたが、5月に入り解除される動きが見られる。

一方、米国農務省の5月の穀物等需給報告では、2020/21年度の世界の小麦、とうもろこし、米、大豆の生産量は、いずれも史上最高を更新する見通しで、相場は落ち着いた動きを見せている。最近の動向をまとめた。

1 穀物輸出規制の動向

(1) 小麦・とうもろこし・大豆

主要輸出国では、ロシアが700万トンの輸出枠を4-6月期に設定したが、すでに枠の全てが発給済みであり、ウクライナは2019/20年度(7月~6月)の小麦について2,020万トンの輸出枠を設定したが、とうもろこしについては設定が見送られた。また、カザフスタンは小麦の輸出枠を4~5月に設定していたが、6月1日以降、輸出規制は解除される見通しである。

南米については、従来からアルゼンチンが財政赤字の補填のため大豆やとうもろこし、牛肉等の農産物に関し輸出税を設定しているが、数量制限は行っていない。ただし、降雨不足によるパラナ川の水位の低下からロサリオ港からの輸出に一部影響があるとの報道があった。

(2) 米

ベトナムは、4月中旬に米の輸出枠40万トンを設定したが、国内供給が十分あるとして、5月以降の米の輸出規制は撤廃した。4月上旬に香り米を除く米の輸出を禁止したカンボジアは5月20日以降、米の輸出規制を解除した。一時米の輸出を停止していたミャンマーは、5月については15万トンの輸出枠の設定を公表した。インドについては、労働力不足から米の輸出に遅れは出ているが規制は行っていない。米の主要輸出国で輸出を禁止している国はなくなったとみられるが、3月末から高騰していた米の国際価格は、ベトナムの輸出枠の解除で下落したものの、依然として高止まりしている。

2 世界の穀物生産見通し

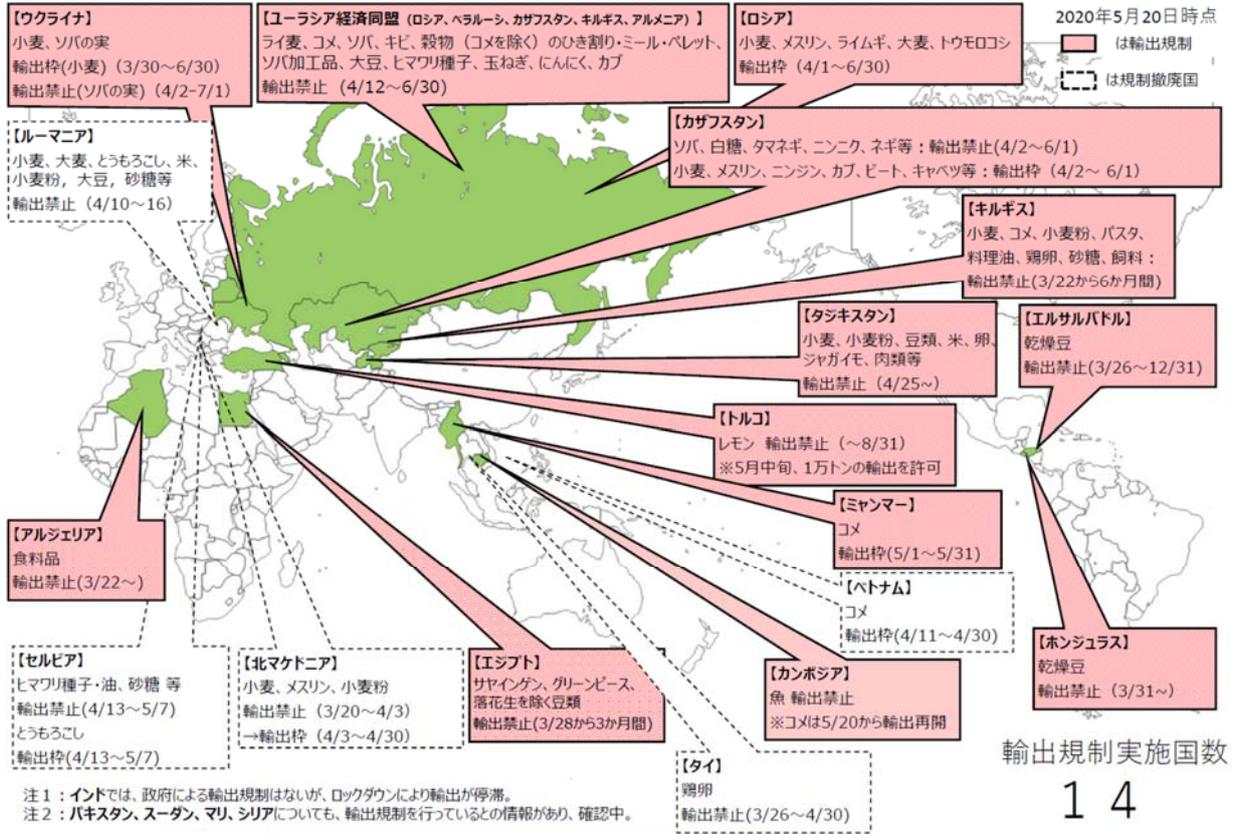
世界の穀物生産見通しに関しては、米国農務省の5月見通しによれば、2020/21年度の世界の小麦、とうもろこし、米とも史上最高を更新する見通しとなっている。例えば、米国のとうもろこしについては5月下旬時点で低温の影響の懸念はあるものの、概ね作付けは過去5年平均を上回るペースで順調に進展しており、史上最高の4億トンの生産量が見込まれている。なお、冬小麦を除き、北半球は5月下旬現在、作付けから発芽段階であり、今後の生育期の天候に留意が必要である。

3 我が国の輸入への影響

我が国の小麦やとうもろこし、大豆については、米国、カナダ、ブラジルといった主産国からの輸入がほとんどを占めており、新型コロナウイルスの感染拡大による輸出規制等の影響はほとんど受けておらず、今のところ順調に輸入が行われている。

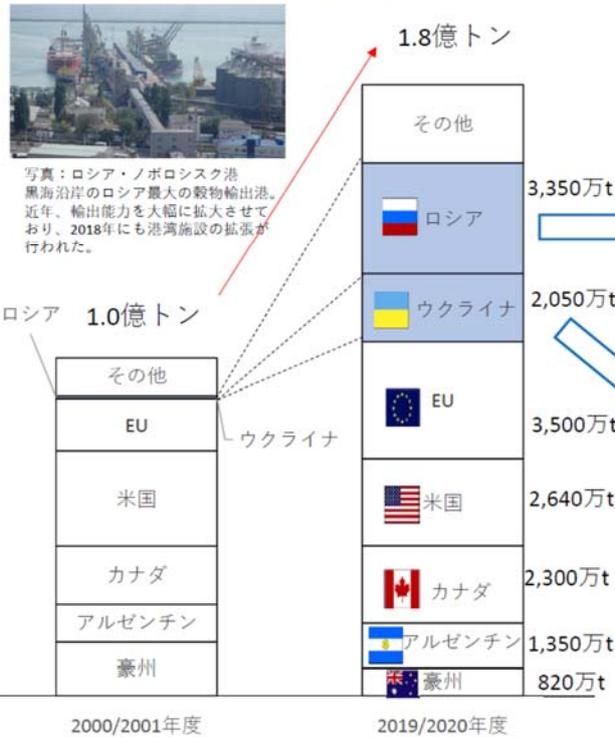
世界の穀物需給については、USDAによれば、2020/21年度の期末在庫率は32.1%と史上最高水準が見込まれており、小麦やとうもろこし、大豆の価格は落ち着いた動きをしている。引き続き、国際関係機関とも協調し、世界の新型コロナウイルスの感染状況が世界の穀物需給に与える影響を注視していく。

(図1) 農産物・食品の輸出入規制に関する最近の主な動き (5月20日時点)

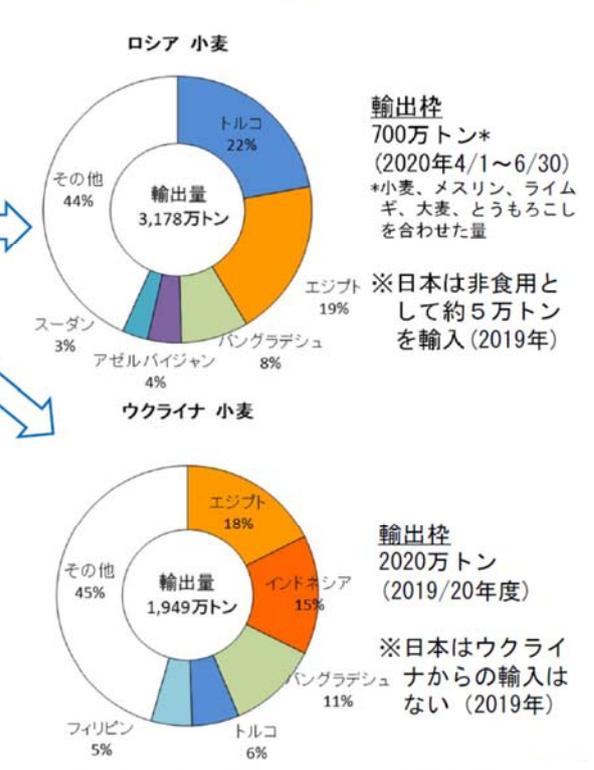


(図2) 輸出規制をしているロシア、ウクライナの小麦輸出量と輸出先

○小麦輸出量の変化 (2000/2001年度→2019/2020年度)

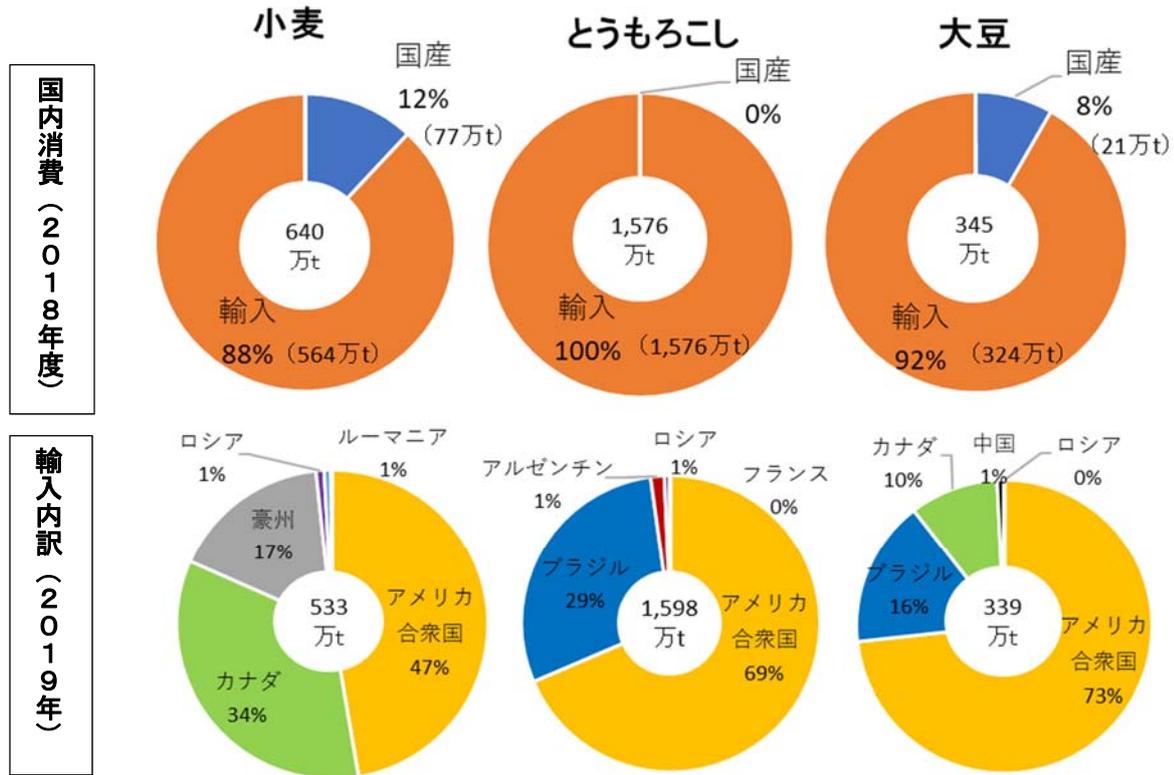


○ロシア、ウクライナへの輸出先国 (2019年)



資料：米国農務省穀物等需給報告他により農林水産省作成(2020.5)

(図3) 我が国の品目別輸入数量 (小麦、とうもろこし、大豆)



(備考) 1 国内消費は、農林水産省「食料需給表」(平成30年度)、
2 輸入内訳は、農林水産省「農林水産物輸出入概況」(令和元年暦年)

(図4) 農産物・食品輸出入規制等に対する国際的対応

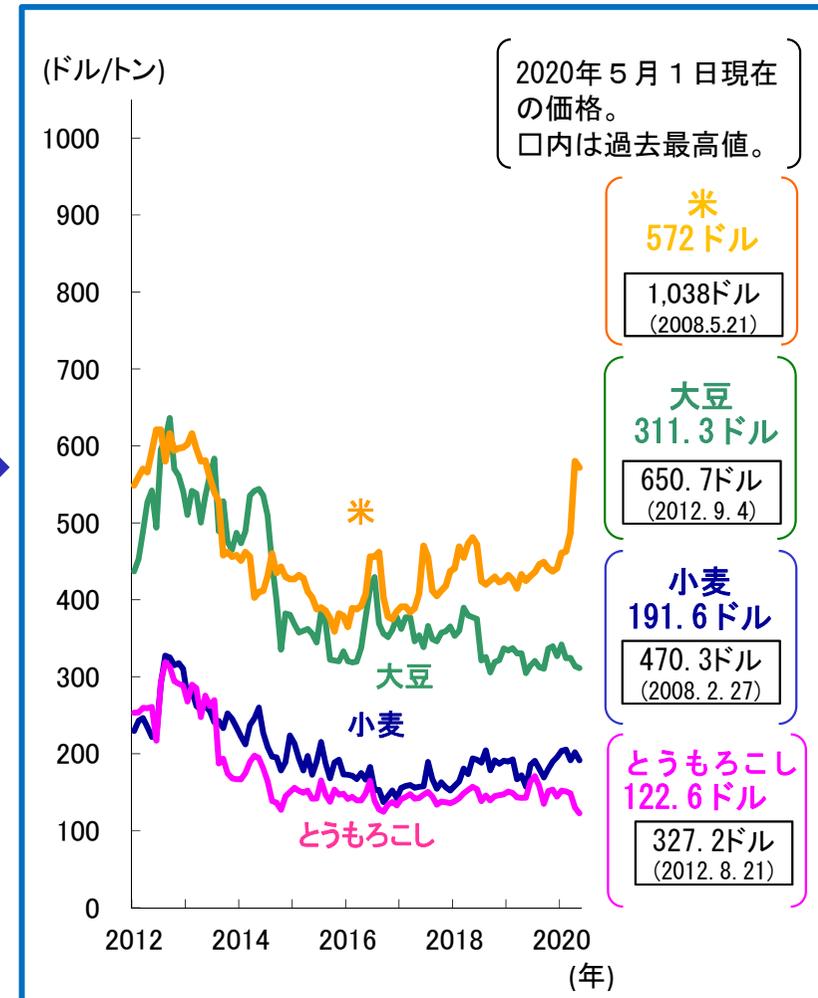
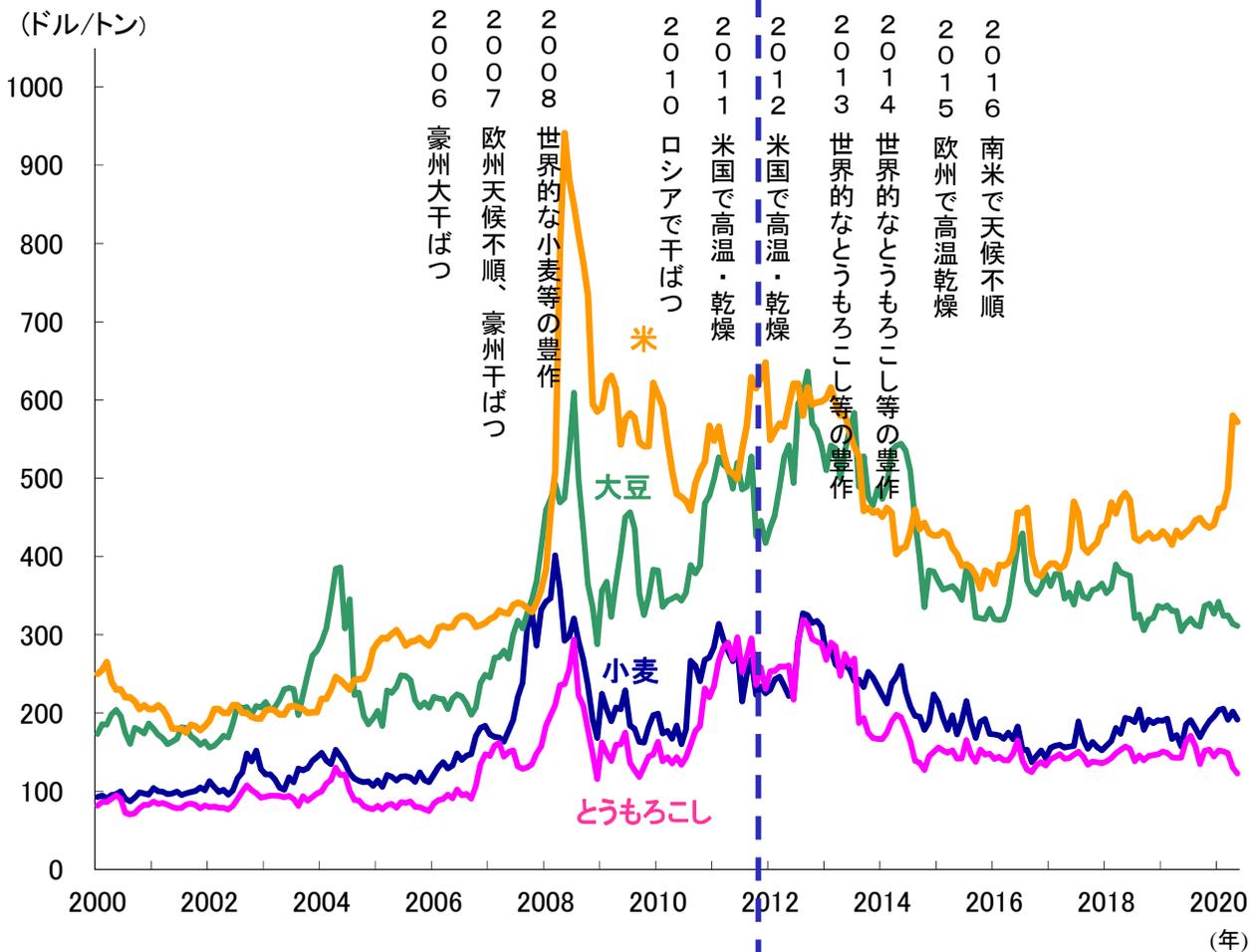
5月15日時点

月日	項目	概要
1 3/31	FAO・WHO・WTO 共同声明	・正当でない理由による輸出規制等はサプライチェーンの混乱を招く。 ・食料の生産、加工、小売業者はサプライチェーン維持のため守られる必要がある。
2 4/16	NZ・シンガポール 共同宣言(WTO)	・医薬品・医療用品及び一部の食料につき、関税・輸出規制の撤廃等を一方的に約束。他国にも参加を呼びかけ。
3 4/21	G20農相会合 共同声明	(1)生産資材の供給を含む、フード・サプライチェーンの機能維持 (2)不当な貿易制限の回避と、WTOルールへの遵守 (3)世界の食料市場や政策に関する情報提供 (4)食品ロスの削減や、将来の動物疾病への備え (5)農村地域、農業者・農業労働者及び食品事業者への支援
4 4/21	FAO・世銀等 共同声明	・G20農相会合同様の内容に加え、貧困層や所得に影響のあった者への重点的支援を提言。
5 4/22	WTO有志23か国・地域(※)共同声明	・G20農相会合(1)~(3)と同様の提言 (※日本も参加)
6 4/24	WTO・IMF共同声明	・医療用品・食料への不必要な輸出規制を行わないよう呼びかけ。
7 5/5	WTO有志42か国・地域(※)共同声明	・医療用品・農産物の貿易制限の回避を提言 (※日本も参加)

資料 1 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な小麦やとうもろこし、大豆の豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移。米は、2013年以降タイの在庫放出等から低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により上昇。(※ベトナムの米の輸出枠は5月1日以降設定されていない。)
- なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



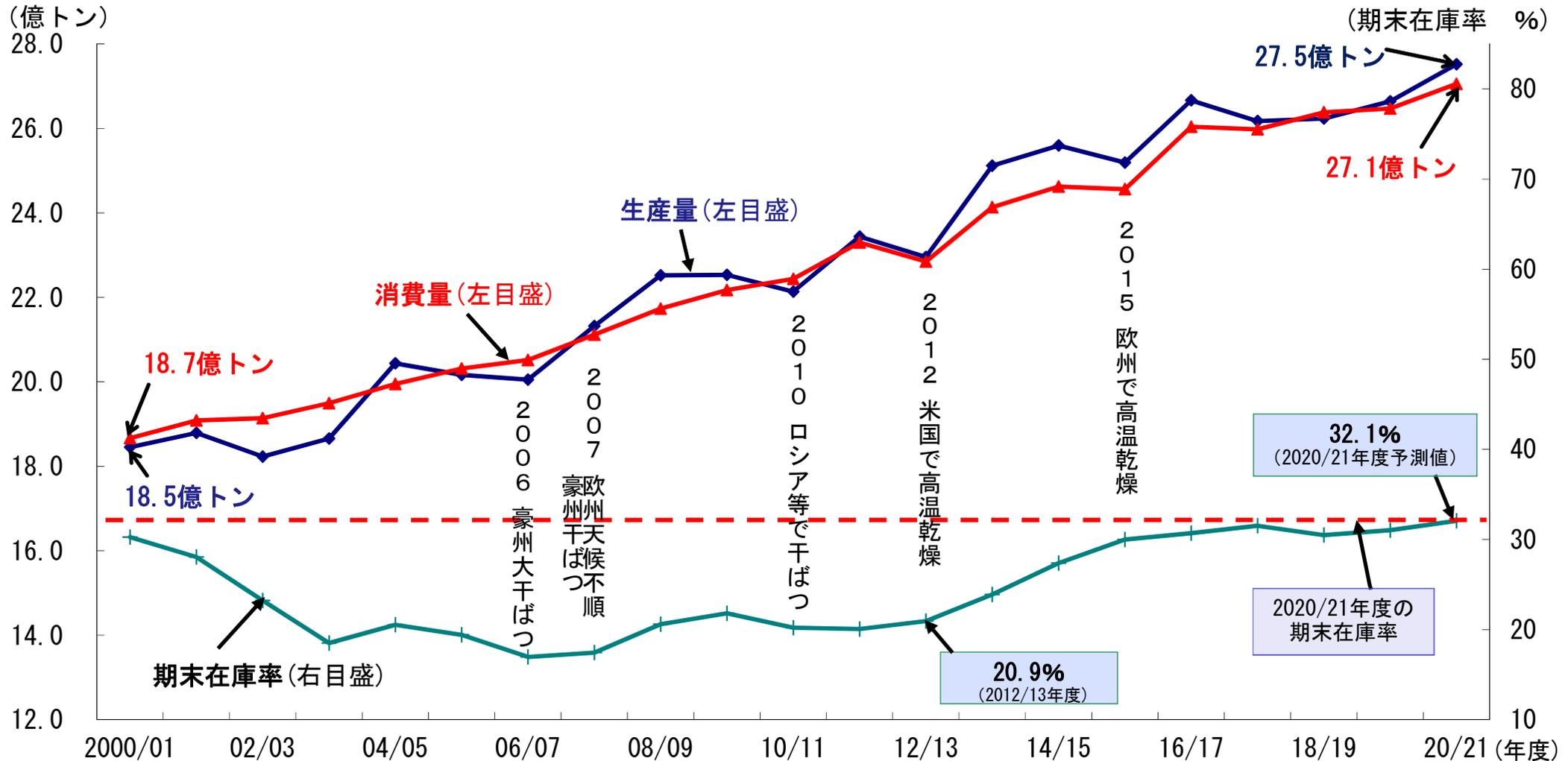
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。米は、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。(なお、5月1日現在の米価格は4月29日の価格。)

注2：過去最高価格については、米はタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、米以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.4倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回ることから32.1%となり、直近の価格高騰年の2012/13年度(20.9%)を上回る見込み。

□ 穀物(米、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 2020)、IPS&D

(注) なお、「IPS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料3 令和元年11月以降の食品小売価格の動向

○ 加工食品の国内の食品小売価格については大きな値動きはなし。

令和元年11月～令和2年4月の食品小売価格の動向

消費者物価指数(総務省)													
品目	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R元		R2				上昇率 (前年 同月比)
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
生鮮食品を除く総合	97.7	100.0	99.7	100.2	101.0	101.7	102.2	102.2	102.0	101.9	101.9	101.6	-0.2%
食パン	98.5	100.0	101.1	100.9	101.4	102.3	102.0	102.0	102.2	101.8	101.2	101.6	-0.3%
即席めん	94.2	100.0	100.0	99.5	99.0	102.4	105.4	103.8	103.6	104.9	104.4	105.0	6.1%
豆腐	98.0	100.0	100.0	100.5	100.7	101.0	101.2	101.0	101.0	101.5	101.4	101.5	0.8%
食用油 (キャノーラ油)	102.8	100.0	97.8	94.5	93.3	92.8	93.0	92.3	91.8	91.9	92.1	92.6	-0.8%
みそ	100.6	100.0	99.4	99.1	99.6	101.4	101.8	102.0	101.9	101.7	102.4	102.5	1.0%
チーズ	97.9	100.0	99.3	98.8	102.6	102.9	104.3	102.7	101.3	102.3	101.2	102.5	-1.3%
バター	95.0	100.0	101.5	101.7	102.0	102.3	102.2	102.4	102.5	102.3	102.2	102.1	-0.3%
マヨネーズ	103.5	100.0	98.1	96.7	95.3	95.1	93.6	94.2	95.7	93.9	93.9	95.2	-1.4%

資料: 総務省消費者物価指数
注1: 平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

【参考】令和元年12月～令和2年5月の食品小売価格の動向

食品価格動向調査(農林水産省)															
品目	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R元	R2					上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
	平均	平均	平均	平均	平均	平均	12月	1月	2月	3月	4月	5月			
食パン	97.7	100.0	100.9	99.5	99.8	103.2	103.0	103.2	102.3	101.6	102.3	103.2	0.9%	-0.8%	
即席めん	93.3	100.0	99.8	99.6	99.5	105.3	108.5	108.5	108.5	107.9	108.5	107.9	-0.6%	6.5%	
豆腐	100.3	100.0	96.9	95.6	95.0	95.7	94.7	95.5	95.1	95.1	95.5	97.1	1.7%	0.4%	
食用油 (キャノーラ油)	102.8	100.0	96.3	94.6	94.6	100.1	98.3	98.3	97.1	96.8	97.4	97.1	-0.3%	-4.0%	
みそ	99.0	100.0	99.8	101.6	106.8	111.0	111.0	110.8	111.7	110.6	110.8	112.9	1.9%	1.9%	
チーズ	97.1	100.0	100.0	99.7	103.2	105.7	106.4	105.3	106.9	105.3	105.3	100.6	-4.5%	-1.1%	
バター	94.6	100.0	101.3	102.0	102.3	102.7	103.0	103.0	103.0	103.0	103.4	103.7	0.3%	0.7%	
マヨネーズ	101.6	100.0	99.2	98.4	97.2	102.4	100.7	101.4	101.0	100.0	100.4	100.0	-0.4%	-1.4%	

資料: 農林水産省 食品価格動向調査(加工食品)
注1: 平成27年の平均値を100とした指数で表記している。
注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で週1回実施。ただし、平成30年10月以降は月1回実施。
注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。
注4: 令和2年4月の調査は、東京都、大阪府、埼玉県、千葉県、神奈川県、兵庫県、福岡県での調査を中止し、5月の調査は東京都、大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、福岡県での調査を中止したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。